

高機能樹脂化学 世界へ

星光P M C

星光P M C (東京都中央区、菅正道社長) は、製紙用薬品をはじめ印刷インキ・記録材料用樹脂、電子材料用粘着剤、機能性モノマーの化成品などBツィーB (企業間) 素材を手がける。1月には米カーライルの傘下に入り、一層のグローバル化や国内事業の最適化に着手した。海外売上高比率の3割から5割へのアップなど大幅な成長で再上場を目指す。

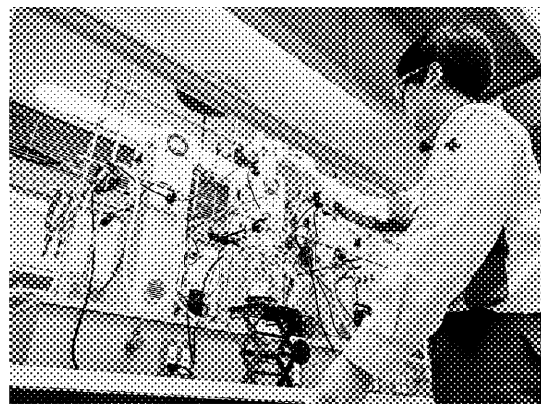
(編集委員・山中久仁昭)

星光P M Cは7月、存在意義に「くらしをこころよく、みらいをあたらしく」を掲げた新企業理念と、2024-28年度の新中期経営計画を策定した。上場を廃止し詳細は非公表だが、売上高約500億円、E B I T D A (利払い・税引き・償却前利益) の大幅アップ



菅社長

⑨ 未来けん引する NEXTカンパニー



千葉研究所 (千葉市緑区) では、製紙用薬品の改良開発のため合成実験を行っている

菅社長は「ストレッチした (高めの) 数字に挑戦する」と意欲を示す。同社グループの事業は、安定ニッチ領域の製紙用薬品と樹脂、高付加価値の成長ニッチ領域の化成品、粘着剤などと幅広い。自社の強みを菅社長は「技術立社」と語る。営業社員の多くが技術系出身で高度な技術営業を展開する一方、環境規制などを先読みした製品開発にも力を入れる。

新中計で①グローバル展開の加速②国内事業構造改革③新事業の創出・選択・集中一を掲げた。まず販路拡大や業務・資本の提携先、グローバル人材の獲得で、プライベートエキイティ (P E) ファンダであるカーライルのグローバルネットワークをフル活用する。

子会社のK J ケミカルズの化成品はすでに部門売上高の約65%がアジア

低環境負荷で新事業・国内は選択と集中

△設立1968年 (昭43) 1月△
資本金11億円▽グループ従業員751人 (23年12月期) △連結売上高約325億円 (同)

会社概要

ア、欧米など海外。製紙用薬品の展開と同様に台湾子会社、新綜工業が扱う粘着剤も、中国、アジアを中心に伸ばすとしている。

国内基盤は、デジタル化に伴う印刷需要の減退を受け樹脂事業の見直しを進めている。包装フィルム用などは成長が見込めるため製品ポートフォリオの最適化、生産体制再構築は待ったなしで、年度内には方向性を示す。

新規事業は低環境負荷で顧客の安全に資する目的から、非フッ素系耐油コート剤や衛生環境に有効なバイオフィルムコントロール剤、農業・洗浄剤用途で低毒性の機能性溶剤、植物由来のセルロースナノファイバー (CNF) などに取り組む。

カーライル傘下に入っても目指す方向に大きな変化はないが、今回従業員と共に企業価値向上を図る姿勢を明確化した。「立てた戦略を遂行すべく、短いサイクルでの進捗管理を徹底したい」(菅社長)。

従来のD I Cからの株主変更は一大転換だが、星光P M Cはそもそも合併会社。ここ数年も買収でグループ力を高めるなど環境変化に強い。「世界で戦う高機能樹脂化学メーカー」に進化すべく大きな一歩を踏み出した。(随時掲載)